

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/篤沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)セララさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOIGOの設計に参加して 平成19年4月23日
講師/竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長〔一級建築士〕

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/萩原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究所 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ビオトープ」/長野市をビオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしいオシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜 このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本 浩二さん パランスアドバイザー 長野県健康管理士协会会长

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野ハルセイロー優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バトゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の音にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践***宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる*** 平成21年6月3日
講師/塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出 陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表 /信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしよ 代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石次 一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷 志保美さんバンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン〜夢と感動と勇気を〜 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン 競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J〜Jを長野に〜いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木 政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジストー茶 平成23年8月30日
講師/マフソン 青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武蔵会 会頭

第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

第36回 すべてがー丸となって「ながのの宝もの」をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ監督

第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/根田 達男さん NTT東日本 長野支店長

第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役

第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師/藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家

第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師/矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長

第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師/近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長

第44回 信州の分水嶺 ～山と川と里～ 平成25年8月22日
講師/栗田 貞多男さん 写真家

第45回 長野市の魅力と不動産取引の発展性 平成25年11月20日
講師/鶴志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長

第46回 地域におけるバイオマス利活用について 平成26年1月29日
講師/天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授

第47回 AC長野ハルセイロー私のチームマネジメントについて 平成26年3月3日
講師/美濃部 直彦さん AC長野ハルセイロ監督

第48回 わたしにとつてのボランティア 平成26年4月16日
講師/丸田 勲さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長

第49回 金沢の未来と長野へのエール 新幹線で結ぶ金沢と長野の絆 平成26年5月26日
講師/浅野 邦子さん 株式会社 第一 代表取締役会長

第50回 取材を通してみた長野の魅力 ～長野をもっと元気に!～ 平成26年10月8日
講師/平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

第51回 チームマネジメント 平成27年1月19日
講師/本田 美登里さん AC長野ハルセイロ・レディース監督

第52回 本物のお産でなし ～加賀屋の経営理念とビジョン～ 平成27年3月17日
講師/小田 興之助さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長

第53回 地域の元気をつくる成長企業は、ここが違う!～地方の中規模企業が成功するための法則とは?～ 平成27年7月1日
講師/廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長

第54回 長野から宇宙へ! ～ローカル企業のチャレンジ～ 平成27年8月25日
講師/羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役

第55回 食を通して発見 知られざる長野の魅力! 平成27年10月8日
講師/中島 麻希さん 1級フードアナリスト

第56回 摩訶不思議!長野の神社の靈感の世界 平成27年11月17日
講師/齋藤 安彦さん 司宮

第57回 大河ドラマ「真田丸」の舞台裏 ～撮影を通して見た信州の魅力～ 平成28年4月2日
講師/屋敷 隆太郎さん NHKチーフプロデューサー

第58回 真田丸の時代を語る ～時代考証の舞台裏 平成28年7月2日
講師/平山 優さん 歴史研究者

第59回 寺町商家の運営で気づいた“食、の力” 平成28年8月30日
講師/西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー

第60回 地域から社会を変えよう!行動する人の集まる港CREEKS 平成28年11月11日
講師/広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表

第61回 長野ハルセイロー今シーズンの目指すチームづくり 平成29年3月13日
講師/浅野 哲也さん AC長野ハルセイロ監督

第62回 輝く女性の活躍で長野県の企業を更に魅力的に! 平成29年5月30日
講師/中島 恵理さん 長野県副知事

第63回 信州は橋の都 千曲川と犀川に架かる名橋/日本一美味しい「飯山のお米」 平成29年7月19日
講師/服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー

第64回 少子高齢化時代の長野市を考える ～行政の政策現場から見えるもの～ 平成29年8月23日
講師/平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)

第65回 長野県を元気に! メンタルヘルス(心の健康)からの大きなヒント! 平成29年9月21日
講師/野池 裕子さん ダイヤモンド・セルブ長野ファースト 代表・講師

第66回 陶芸の楽しみ 平成30年3月23日
講師/愛甲 麻明さん 炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長

第67回 話すって難しい? 平成30年4月23日
講師/坂橋 克明さん フリーバー・ソナリティー

第68回 中世善光寺知来堂東向き 平成30年7月5日
講師/宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高専客員教授

第69回 これからの長野における大学教育 ～人生100年時代の生き方と学び方～ 平成30年8月23日
講師/金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長

第70回 広域景観から見た善光寺 ～山岳信仰と他界意識～ 平成30年9月26日
講師/笹本 正治さん 長野県立歴史館 館長

第71回 劇場が街を変える 平成30年11月30日
講師/山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人

第72回 早春のマンデー・ジャズ・ナイト 平成31年3月11日
出演/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ優子・長谷川 裕晃・中野 寿寛

第73回 100年前に信州がめざしたの～県歌「信濃の国」に垣間見る～ 平成31年4月25日
講師/山浦 直人さん 土木・環境しなの技術支援センター 理事、長野県立歴史館客員学芸員

第74回 人生に無駄なし! 令和1年7月18日
講師/松本 克幸さん 協栄電気興業株、取締役副会長

第75回「企業経営」～SDGsと求められる企業モデル～ 令和1年9月25日
講師/大室 悦賀さん 長野県立大学グローバルマネジメント学部教授/ソーシャル・イノベーション創出センター長



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

わいがや
サロン

通信

Vol. 76
2019.12

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第76回 わいがやサロン

出演：AO VIVO

平成から令和に移った2019年の最終「わいがやサロン」は会員の皆さんからのリクエストに応じてクリスマス・ライブを催しました。出演は第72回(3/11)にてジャズとボサノバを披露願った「AO VIVO(アオビーヴォ)」の皆さんです。

場所/NUPRI事務所 12月6日(金) 18:00~20:20

時間となって岩野座長が立ち上がり、今秋に長野市はじめ各地を襲った台風で被災した方々へお見舞いを述べ、「この会場にも、この一年、思いもよらぬ悲しいことに遭われた方、嫌なことだけでなく嬉しいことに出会った方もおられます。今宵はすべてを忘れて生演奏に酔っていただければと思います」と挨拶。12月にちなみ銘打ったクリスマス「Jazz & Bossa」ナイトが幕開けしました。

Blues For Pat

舞台=事務所内スペースで先ほどから控えていた、左からドラムス、サクソ、ベース、ギターのカルテットがア陣あうんの呼吸合図によりスタートした楽曲はブルース。サクソスがメロディラインを吹き鳴らすと、追うようにベース、ドラムス、ギターが重なっていきます。楽器たちがハモって、あるいは主役になって同空間にいる参加者たちを一気に驚つかみしました。

「1曲目はAO VIVOが名刺代わりに演奏するジャズの名曲「ブルース・フォー・パット」でした」と、ベースの中田さんがMC(進行役: master of ceremony)。3月出席者は開幕前にプログラムを見て、1曲目が前回のスタート曲と同じと思っていましたから、名刺代わりという言葉に、そういうわけだったのかと頷いたのです。

※「ブルース・フォー・パット」は「ジャズ史上、最も素晴らしいベース・プレーヤーの一人」とも形容されるチャーリー・ヘイデン(1937~2014)が名ギタリストのパット・メセニーに捧げた曲。

White Christmas

中田さん「次は「ホワイトクリスマス」です。その前に、この人がいないとAO VIVOと名乗れないので登場してもらいます。ボーカルの山極「おーじ「優子!」衝立の裏から女性が登場すると他メンバーから「イショ(衣装)!」。山極さん、ステージ衣装(黒のロングドレスに真っ赤なプリーツのロングコート)の件には触れず「先月、長い髪をバツサリ切って、気合を入れるために先ほども切ってきました。会を盛り上げていけたらと思います。ではクリスマスといえの曲を聴いてください。ホワイトクリスマス」

※「I'm dreaming of a white Christmas(雪のクリスマスを夢見ている)」で始まる、お馴染みの「ホワイトクリスマス」は1941年アーヴィング・バーリンが作詞・作曲。ビング・クロスビーが歌って歴代最もよく売れたシングルとされている。

AO VIVOは主にジャズとボサノバを演奏するユニットですが、5人のメンバーはAO VIVOとしての演奏活動だけでなく、それぞれがさまざまなユニット、ビッグバンドに属して長野市内外のホール、飲食店、イベント等に出演しているそうです。そんなわけで当夜のライブ前リハーサルが久しぶりの顔合わせとなった面々も。とは言え、ひとたび音合わせをすれば「ワンチーム(今年の流行語大賞)」、AO VIVO以外の何者でもない顔に、そして息合う演奏ぶりは聴者に自ずと伝わるのでした。

曲が終了してクリスマス気分になったところで山極さんよりメンバー紹介。「……それぞれ仕事を持ちつつ演奏活動をしています。3月の状況と異なるのは唯一ドラムスの長谷川さん。勤め先が長野市文化芸術振興財団に移りました。

次は、私は抜けてインストゥルメンタルの「枯葉」をお楽しみください」

Autumn Leaves

誰もが知るイントロでスタート。3月プログラムにありましたがソレとは、まるで別物!? 前回がいわゆるというか繊細さをもつクールなジャズ・バージョンで、枯葉が無い散り踊るのは都会の街角、とすれば……今回は強く、疾(はや)く、骨太で、枯葉が存在する場所・風景は……それぞれの聴者に任せましょう。厚く乾いたリーフ(楽器)がアドリブ(即興演奏)ソロしては次の街角を曲がる=次のソロへ繋げて全く別の風景が繰り広げられるのでした。

※「枯葉」:ジョセフ・コズマが1945年に作曲した作品が原型のシャンソンが全世界でヒット。1950年代、マイルス・デイヴィスに取り上げられジャズの大スタンダードに。

Stella By Starlight

中田さん「ジャズには「枯葉」のように元々シャンソンというものもあれば、前回演奏した「いつか王子様が、は『白雪姫』、「星に願いを、は『ピノキオ』の映画音

楽がジャズ・スタンダードになる、というカタチもあります。結構ディズニー映画の音楽がジャズにアレンジされる例が多いですが、こちらは『呪いの家』という映画のために作られた曲。映画はコケタけれど曲は大ヒットしジャズのスタンダードになっています」

※「星影のステラ」はヴィクター・ヤングが、1944年の映画『呪いの家』(配給:パラマウント映画)のために作曲し彼の楽団が演奏。チャーリー・パーカー(アルト・サクソ)、スタン・ゲッツ(テナー・サクソ)、マイルス・デイヴィス(トランペット)などカバー。歌詞を付けたバージョンもある。

Cantaloupe Island

中田さん「次はジャズメンによるオリジナル・ジャズになります。ハービー・ハンコックの名前は皆さんもご存知かと思ます。彼は来年80歳になりますが、常に最先端を行っていてまだまだやりそうです。彼の有名な曲です」

主旋律がパート、パートへつなぐ面白さ!サクソだけでなくギターもベースもドラムスも主役になる構造、転調の妙味に、会場から「待ってました!」「これぞジャム・セッション!」の声が上がりました。わいがやタイムにて中川さんが「サクソはボーカルの音色・役割に近い」と言われたことにも納得です。

ハービー・ハンコックと聞けば「ウォーターメロン・マン」を思い浮かべる人も多いはず。で、この曲のタイトルを直訳すればカンタロープ(マスクメロン=果肉が赤い)島……面白いですね。両曲が発表された1960年代に、このトロピカルなイメージ・楽曲は当時にしてかなり斬新だったのではないのでしょうか。

※ハービー・ハンコック(1940~シカゴ生まれ)は音楽と電子工学の博士号をもつピアニストで、この曲は1964年のアルバムに収録され、ジャム・セッションの定番だそう。



No More Blues (Chega De Saudade)

ドラムス前で控えていた山極さん「生の演奏をこんな間近で聴けて贅沢でした。次はブラジル発のボサノバ、「No More Blues」です。恋人に去られた気持ちを歌ったもので英語歌詞もありますが、今日はポルトガル語で歌わせていただきます」

※アントニオ・カルロス・ジョビン曲、ヴィニシウス・ジ・モライス詞。最初のボサノバ作品と目されている。♪君がいないとだめなんだ……もし失れるものなら、あの頃にもどりた

ボーカルの山極さんとギターの竹内さんは二人によるボサノバを演奏するユニットとしても活動中。県内だけでなく東京へ出張ライブもしている由。山極さんはボサノバの心を歌いたくてポルトガル語を習っているそう。

The Christmas Song

「12月近くなると街中やTV・ラジオからいろいろな人のいろいろなバージョンで聞こえてくる曲「The Christmas Song」を今夜はシンプルに歌います」

※1944年にミュージシャンで作曲家・歌手のメル・トームがボブ・ウェルズと一緒に書いた曲。特に ナット・キング・コールによる歌唱で広く知られている。

One Note Samba

(Samba De Uma Nota Só)

プログラム最後の曲はボサノバのスタンダード・ナンバー「ワン・ノート・サンバ」を、ボーカルは、やはりポルトガル語で。タイトルどおり、連続した同じ高さの音符からなるシンプルな主旋律

が異なる楽器・声によって奏でられていきました。一つの音だけで聴くものを魅了する音楽って本当にスゴイですね。そして歌詞の意を知るともっと深いようでした。

※Samba De Uma Nota Só オリジナル作詞:ニュートン・メンドンサ/英語版作詞:アントニオ・カルロス・ジョビン(1962)作曲:アントニオ・カルロス・ジョビン(1959)。意:これは、一個の音で作ったサンバ……喋るけれど何も残らない人が世の中にはいる……だから私は最初の音に戻るしかない。あなたのところに戻るよにね……

花は咲く

「今年は秋に大変な台風被害が発生しました。来年がいい年でありますようお願いを込めて、アンコール曲に東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を用いました。歌える方は一緒にどうぞ」

※「花は咲く」(2012)作詞:岩井俊二(宮城県仙台市出身)、作曲・編曲:菅野よう子(同県同市出身)

♪♪♪♪♪(拍手喝采)

AO VIVOはポルトガル語で、意味は英語のLive。音楽シーンで使う「ライブ」でもあり、「生きる」を兼ねている——そんなユニット名を参加者も共有した時間でした。



[プロフィール]
AO VIVO(アオビーヴォ)
仕事をしつつ、そのかたわら、ジャズ、ボサノバを中心に演奏する5人ユニット。
長野市(2人)、須坂市、飯綱町に在住。

[メンバー紹介]
♪リーダー/ギター:竹内浩一(たけうちこういち)
3次元系の測量を得意とする(有)フリースケールを起業し、代表取締役。
♪サクソ:中川雅紀(なかかわまさき)
日本郵便半礼郵便局勤務(局長)。
♪ボーカル:山極「おーじ」優子(やまぎわ おーじ ゆうこ)
長野市三本柳児童センター(長野市放課後子どもプラン施設)勤務(児童支援員)。
♪ドラムス:長谷川裕晃(はせがわひろあき)
長野芸術館勤務。3月まで勤務していた(一社)須坂市文化振興事業団での経験を生かし、市民・若者・子どもたちの音楽の裾野を広げる企画運営を担当。
♪ベース:中田寿寛(なかつたとしひろ)(株)ながのアド・ビュロー勤務

